

市公式LINEから市内の道路などの浸水状況の通知を受信できます

近年、激甚化・頻発化する災害に備え迅速な避難などの判断材料とすることを目的に、市内の浸水危険箇所に浸水センサーを設置しました。市公式LINEと連携し、浸水状況の通知を受け取ることができます。受信したい箇所を個別に設定することで、センサーが浸水を検知した際、お手持ちのスマートフォンに通知が届きます。

■設定方法



■浸水センサの主な設置場所

- ・排水ポンプ施設付近：浸水危険が高い場所
- ・アンダーパス：周囲の路面より低く、豪雨時に冠水の危険がある場所
- ・早期浸水箇所：豪雨時に道路冠水が発生しやすい場所

問合先 本庁道路河川課建設管理G (内線 3321)

問合先

市長が思い描く未来の実現のために、**誰一人取り残さない、持続可能**を意図するというのが、私が買っている考え方です。

誰一人取り残さないという考え方でいうと、イベントは大きい小さい、近い遠いは関係なく行くようにしています。そうすることで市民の皆さんと会場で直接対話することができ、時間も掛かるけれど、この手間暇を惜しむことはできません。

持続可能という視点では、イベントなども後世に伝承しなければいけないと思っています。川内大綱引がいい例です。子供大綱引を通して、子どもたちに伝えることができますから。

市民に意識してほしいことや取り組みでほしいことなどはあります。まず、環境配慮や資源循環。これからは必要になってきます。あったらしか(もったいな

令和4年5月にSDGs未来都市に選定されて2年が経過します。そこで今月は、さまざまなSDGsの取り組みを実践する本市において、市長がどのようなことを意識しているかなどについて、インタビューしていきます。

市長と振り返る 薩摩川内市誕生20周年 vol.3

誰一人取り残さない



▲生涯学習フェスティバルの様子

持続可能性



▲SDGs未来都市について

今回は、SDGsの観点から市長の考えを聞き、これからの未来を考えて、一人一人が意識して行動しなくてはならないと感じました。次回は、防災についての市長の考えに迫ります。

問合先 本庁秘書広報課 企画総務・広聴広報G (内線 4122)

問合先



おなじみ 岡留一正さん

「人のとなりに」とは…

文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人となり」をイメージしたコーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当てることを目的としています。

教師を志した学生時代

「小学生の頃にテレビで見たドラマの主人公に憧れて教員を目指した」と話すのは、4月に開校した祁答院小学校の初代校長を務める岡留一正さん。憧れの教員免許の取得を目指して学生時代を過ごし、教育実習でさらにその気持ちが強くなったと言います。その後中学校の教員採用試験に合格し、教員人生をスタートさせました。

まず肯定

子どもたちと接する中で、岡留さんが気を付けていることは、子どもたちの話を肯定すること。「『そうなんだね』のように肯定的な言葉を掛けるように意識しています。せっかく話してくれたのに、最初に否定してしまうと、子どもたちも残念な気持ちになるので共感するような声掛けを心掛けています」と話します。「たくさん話してくれる子どもたちには、じっくり話を聞くことが大切です」と教えてくれました。

これまでの教員生活

中学校の理科の先生として教員人生をスタートし、これまでの長い教員生活で、かつての教

え子と児童・生徒の親として再会することもあると話します。「『〇〇中学校の時の〇〇です。覚えていますか』と教え子が声を掛けてくれることがあります。その時はとてもうれしいです。また、教え子が社会の一員として、自立して頑張っているという報告をもらった時もとてもうれしいです。今年の祁答院小学校の新入生の保護者にも、担任をしていた時の教え子がいました。当時の教え子の子どもたちの世代も入学してきたと思うと、時の流れが早く感じます」としみじみと話してくれました。

本市の印象

県内のさまざまな学校に赴任し、本市に赴任するのは、川内中央中学校と前任の大豊小学校で2回目で、引き続き祁答院小学校の校長を務めることになりました。本市はスポーツにすぐ力を入れている、プロのスポーツ選手が合宿を行ったり、伝統行事の川内大綱引があったりと、子どもたちがスポーツや文化に触れる機会が多い印象を受けます。それらを通して、地域や保護者とのつながりを持っているので魅力的だと感じています。祁答院地域は地域のつながりが強く、子どもたちにより良い学習環境を提供するため、地域一

体となって小学校再編に積極的に携わっていただきました」と話してくれました。

これからの祁答院小学校

開校式の当日の朝、子どもたちの「おはようございます」という元気なあいさつを聞いた時、良い学校になるだろうと安心したそうです。「あいさつや礼儀を意識しなくてもしっかりとできる子どもたちを誇りに思います。これまで小学校再編に関わってきた人たちが地域の方々の思いを背負って、素晴らしい学校だと認めてもらえるようにしていきたいです。また、開校した4校の頭文字をとった「祁答院小学校かくくだい(拡大)プロジェクト」を計画し、これから祁答院小学校の魅力を広めていくように頑張りたいです。そして、子どもたちにとって『楽しい、面白い、元気が出る』学校にしたいです」と新たな歴史を歩む小学校への思いを語ってくれました。



▲祁答院小学校校訓